



▶市民参加シンポジウム

広島大学医学部創立50周年記念行事
記念講演会・市民参加シンポジウム

（左）「大半の人が、よりやるもん」
（右）「大半の人が、よりやるもん」

去る七月二十二日に、広島県民文化センター
ホールで、あいにくの雨にもかかわらずホー
ルいっぱいの参加者を得て、吉永医学科長の
司会のもとに午後二時から講演
会が始まった。

広島大学名譽教授・大阪大学
名譽教授藤田尚
男先生が「自然
の美と絵画の美」
と題して、「美は
真なり、眞は美
なり」というジ
ヨン・キーツの
詩をもとに、自

記念講演会と市民参加シンポジウム

去る七月二十二日に、広島県民文化センター
ホールで、あいにくの雨にもかかわらずホー
ルいっぱいの参加者を得て、吉永医学科長の
司会のもとに午後二時から講演
会が始まった。

（左）「大半の人が、よりやるもん」
（右）「大半の人が、よりやるもん」

医学部は、昭和二十年八月五日には広島県立
医学専門学校として設立され、広島県立医科
大学を経て今姿となり、今年設立五十周年
を迎えた。この間、昭和四十四年に薬学科が
設置され、さらに平成四年には保健学科が併
設されて、三学科よりなる唯一の国立大学医
学部へと、その規模において成長を遂げた。

われが医学部の次なる課題は、医療・保健・
福祉にわたる各学科の調和を図りつつ質的充
実を成すことである。そこで、年輪を最も重
ねた医学科を中心として、この五十年を振り
返り将来の展望を考える良い機会でもあるの
で、昨年九月医学部五十周年記念行事準備委
員会を組織した。その結果、記念式典とは別
に、医学部から地域社会へメッセージを発信
する場（記念講演会）と社会から医学部への提
言をいたぐ場（市民参加シンポジウム）を設
けた。

医学部は、昭和二十年八月五日には広島県立

医学部創立五十周年記念行事 広報・涉外担当委員会委員長

◆瀬山一正

医学部は、昭和二十年八月五日には広島県立
医学専門学校として設立され、広島県立医科
大学を経て今姿となり、今年設立五十周年
を迎えた。この間、昭和四十四年に薬学科が
設置され、さらに平成四年には保健学科が併
設されて、三学科よりなる唯一の国立大学医
学部へと、その規模において成長を遂げた。
われが医学部の次なる課題は、医療・保健・
福祉にわたる各学科の調和を図りつつ質的充
実を成すことである。そこで、年輪を最も重
ねた医学科を中心として、この五十年を振り
返り将来の展望を考える良い機会でもあるの
で、昨年九月医学部五十周年記念行事準備委
員会を組織した。その結果、記念式典とは別
に、医学部から地域社会へメッセージを発信
する場（記念講演会）と社会から医学部への提
言をいたぐ場（市民参加シンポジウム）を設
けた。

医学部は、昭和二十年八月五日には広島県立

然の美の持つ自然科学的意味と人文科学的意
味とを論じられた。休憩時間には、医学部學
生のジャズ演奏と室内樂演奏が花を添えた。

次いで「大学病院に求めるもの、求められ
るもの」と題して梶山・生田両教授の司会の
もとにシンポジウムが持たれた。パネリスト
として、日本リウマチ友の会広島支部長・桧
山絹枝氏、日本バプテスト連盟・広島西キリ
スト教会牧師・牧野鉢伊氏、広島市消防局警
防部長・山根光夫氏、広島大学名譽教授・金
澤文雄氏、前広島県看護協会会長・大崎サヨコ
氏、広島県福祉保健部長・中谷比呂樹氏、広
島赤十字・原爆病院長・富重守氏、広島県
医師会長・福原照明氏が参加された。

本学からは土肥病院長・溝上看護部長、大
谷救急部・集中治療部副部長が出席した。

このシンポジウムは、大学病院が初めて世
間に對し耳を傾けたと言ふことで大きな反響
があり、二時間半に及ぶ会は充実した内容の
あるものとなつた。主要提言を列記してみる
と左記のことくである。

（一）医学教育について

患者の心の解る医師の養成を多くの人が要
望された。患者の価値感・人生觀まで踏み込
んだ対応のできる医師の養成が求められた。

病気の告知についても周囲の事情を配慮し、
患者が質の良い人生を全うできるよう柔軟に
対応できる医師を作つて欲しい、また死につ
いていろいろな角度から教育を受けた医師

であるようにと、要請を受けた。

医学部創立五十周年記念式典

八月五日、リーガロイヤルホテルで盛大な
記念式典が行われた。式典には、来賓として、
与謝野文部大臣代理の木曾医学教育課長、藤
田広島県知事、平岡広島市長及び福原広島県
医師会長はじめとして広島県選出の衆・參
兩院の国会議員の方々の出席を賜った。

調査医学部長の式辞、原田学長の挨拶に引
き続き、来賓の方々の祝辭をいたいた後、
三十年以上の勤続者に感謝状を贈呈し、無事



▲記念式典